

参考資料

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）、 自立活動の「流れ図」、個別指導計画の作成例

ここでは、学校生活支援シート(個別の教育支援計画)、自立活動の指導内容の設定までの「流れ図」、個別指導計画の作成例を、6例掲載しています。

障害種ごとに、実態を把握するための情報整理や実態を踏まえた指導目標の設定、指導内容設定までの手順の「流れ図」を示していますので、自立活動の指導内容を設定する際の参考にしてください。

参考資料(目次)

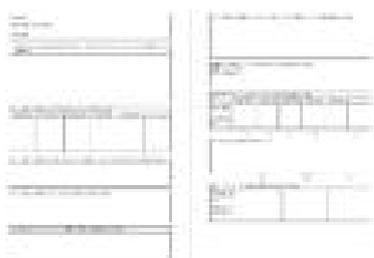
| | |
|------------------------|----|
| 作成の大まかな流れ | 2 |
| 【事例1】知的障害特別支援学級 | 3 |
| 【事例2】言語障害通級指導学級 | 7 |
| 【事例3】弱視通級指導学級 | 11 |
| 【事例4】難聴通級指導学級 | 15 |
| 【事例5】特別支援教室(学習障害) | 19 |
| 【事例6】特別支援教室(注意欠陥多動性障害) | 25 |

作成の大まかな流れ

学校生活支援シート (個別の教育支援計画)



自立活動の「流れ図」



個別指導計画



連携型個別指導計画



本人や保護者の希望を踏まえ、教育、保健・医療、福祉等が連携して、児童・生徒を支援していく長期計画のこと。

作成に当たっては、本編第1部第1章第10節「個別の教育支援計画」及び東京都教育委員会発行の各種資料を参考にする。

(参考)

* 個別の教育支援計画に基づく連携ガイドライン (平成29年3月)

* 「つながり」と「安心」保護者とともに作る個別の教育支援計画 (平成28年3月)

* これからの個別の教育支援計画～「つながり」と「安心」を支える新しい個別の教育支援計画～ (平成26年3月)

自立活動の指導内容は、「流れ図」を作成し、設定する。

実態を把握するための情報収集や情報整理を行い、中心となる課題に対し、優先する指導目標を決め、指導目標を達成するために必要な自立活動の項目を選定し、関連付けて具体的な指導内容を設定していく。

(参考)

* 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編

児童・生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確して、きめ細やかに指導するために作成する長期及び短期の指導計画のこと。

指導を実施したのち、評価をすることで、指導計画の適切な改善を図る。

連携型個別指導計画は、児童・生徒が在籍学級でのよりよい適応を図るため、在籍学級、特別支援教室・通級指導学級それぞれで作成した個別指導計画において、主たる指導目標や指導内容を共有し作成する。

作成に当たっては、本編第2部第2章第2節「個別指導計画、連携型個別指導計画」及び東京都教育委員会発行の各種資料を参考にする。

(参考)

* 特別支援教室の運営ガイドライン (令和3年3月)

* 小・中学校の特別支援教育の推進のために (平成26年3月)

【事例1】知的障害特別支援学級

| | |
|--------------|---------------------------------------|
| 学校・学年 | 中学校・第2学年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 知的障害・自閉スペクトラム症。不安や緊張が強く、集団参加に困難がみられる。 |

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ってほしい、など)

| | |
|-------|--|
| 本人から | <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に友達と遊べるようになりたい。人の目が気にならないようになりたい。 ・自分の思いや考えを伝えられるようになりたい。 |
| 保護者から | <ul style="list-style-type: none"> ・教室での学習に安心して参加し、クラスのみなどと一緒に行動したり、学習したりできるようになってほしい。 ・生活上必要な読み書きができるようになり、日常生活で使えるようになってほしい。 |

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・国語が好きで、漢字の学習に取り組んだり、百人一首を覚えたりしている。 ・家庭での手伝いは、自分から気が付くことが多く、進んで取り組んでいる。 ・教室に入って参加するということが難しいことを心配している。失敗や間違いに反応しやすく、失敗が恐くて一歩が踏み出せないでいる。家庭では「大丈夫!」と声をかけるようにしている。 |
|---|

3 支援の目標

| <ul style="list-style-type: none"> ・感情や行動をコントロールする力を高め、情緒を安定させて生活する。 ・参加できる活動を増やす。 ・将来の自立と社会参加に向けて、学習内容の定着を図り、人との関わることへの自信と意欲を高める。 | |
|---|---|
| 学校の指導・支援 | 家庭の支援 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが混乱した時の対処の仕方を身に付けられるようにする。 ・自分の気持ちを言葉で伝える学習をするとともに、相談することのよさを実感できるようにする。 ・構造化された授業と教室環境、安心できるグループ構成等を工夫し、スモールステップの指導により、学級の中で、みんなと一緒に活動できる時間を増やす。 ・情緒が安定した状態で学習できるよう配慮しながら、学習内容の定着を図る。 ・学級の中で「できた」「わかった」喜びと成就感を積み重ねることで自信をつけ、取り組めることを増やす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかっても気持ちを伝えられるように、じっくり話を聞く。 ・否定的な感情になっているとき、こだわりがやめられないときは、肯定的な捉え方ができるように、考え方を伝える。 ・母親以外の家族と一緒に活動する時間を作る。 ・弁当箱を洗う、風呂掃除をする、タブレットは決められた時間に行う等、家の中での約束事を必ず守れるようにする。 |

| | |
|--------------|--|
| 学校・学年 | 中学校・第2学年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 知的障害・自閉スペクトラム症。不安や緊張が強く、集団参加に困難がみられる。 |
| 事例の概要 | 感情や行動をコントロールする力を高め、情緒を安定させて生活し、自己肯定感を高める指導事例 |

| |
|---|
| 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について 情報収集 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣は自立している。健康状態は良好で、学校に休まず登校している。 ・情緒が不安定になりやすい。特に、人に対する緊張が強く、初めての場所や人への抵抗感により、人と関係を築くのに時間がかかる。周りの人を強く意識しており、自分への評価を気にしている。 ・失敗への不安感や本人が見通しのもてていない活動への不安感が非常に強く、取り組み始めるまでに時間を要する。一度取り組み始められると、その後の活動への取り組み方はスムーズである。 ・場の空気を読んだり、人の感情を理解したりすることが苦手で、状況が理解できずに混乱し、教室を飛び出してしまふことがある。なかなか教室に入れず、別室で過ごす時間が長い。大きな声や音に敏感で、静かな雰囲気を好む。 ・相手の言っていることを理解することができるが、自分の思いを表出することは苦手である。意思の表出は特定の人の前でないと難しい。話すことよりも、文を書いて気持ちを表現することが得意である。 ・手先が器用で、作業的課題は得意である。作業ペースは速く、集中力を持続する力がある。 |

| | | | | | |
|--|---|---|--|--|---|
| - 1 収集した情報()を「自立活動の区分に即して整理する段階 | | | | | |
| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣は自立している。 ・健康状態は良好で、学校に休まず登校している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・初めての場所や人への抵抗感、見通しがもてない活動への不安感が非常に強い。 ・状況を理解することができずに混乱し、教室を飛び出してしまふことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・対人緊張が強い。人と関係を築くのに時間がかかる。関係が築けていない人の前や集団の中では、活動することが難しいことが多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声や音に敏感で、静かな雰囲気を好む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手先が器用で作業的な課題は得意である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の言っていることを理解することはできるが、自分の思いを表出することは苦手である。話すことよりも文を書くことが得意である。 |

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| - 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・情緒が不安定になりやすく、教室から出てしまうなどの行動上の問題が生じている。 ・失敗することへの不安、集団に参加できない自分への苛立ち、他者からの評価を意識しすぎていること、自己肯定感の低さが、情緒が不安定になる要因として考えられる。 ・不安な気持ちを言語表現できず、飛び出しや回避等の不適切な行動になってしまう。 ・物事の背景にあることをイメージしたり、繋がりを予想したりすることが苦手である。場の空気を読んだり、他者の感情を理解したりすることが難しく、混乱して情緒が不安定になることがある。 ・本人には友達と仲よくなりたい気持ちはあるが、対人緊張が強いことや状況理解が苦手なことなどから、友達と関係を築くことが難しくなっている。 ・言語理解力・表現力は備わっているが、対人緊張が強いため、担任や支援者に、その時の状況等を説明することが難しい。 ・時間・環境・活動の構造化、安心して取り組めるグループ構成、気持ちに寄り添った指導、想定する困難への対処方法等を学べるようにするなどの指導・支援をしている。 | | | | | |

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| - 3 収穫した情報()を卒業後の姿の観点から整理する段階 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「できること」「わかること」を増やし、自信をもって行動できるようにする。 ・不安な気持ちを自身で落ち着かせる力や困ったときの対処の仕方を身に付けることで、中学校卒業までに、飛び出しや回避等の行動の改善を図る。 ・将来の就労を見据え、高等部の学習を円滑にスタートできるように、中学校卒業までに、少人数グループの中で友達と協力したり、一緒に活動したりできるようにする。 | | | | | |

| |
|--|
| を基に - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・社会的なルールを守ることよりも、自分の感情を優先して行動してしまう。(心・人・コ) ・混乱した時に、気持ちを静める手段を身に付けていない。(心) ・緊張や不安を感じた時に、他者に相談したり、気持ちを伝えたりすることが難しい。(心・コ) ・苦手とする集団活動に参加するための素地となる、自己肯定感が低下している。(心) |

| |
|---|
| で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・集団に参加できないことで自己肯定感が低下しており、活動から逃避したり、活動が消極的になったりしていると思われる。時間・環境・活動の構造化、安心して取り組めるグループ構成、気持ちに寄り添った指導、想定する困難への対処方法等の指導により、スモールステップで活動できる場面を増やしていく。「できた」「わかった」という喜びや成就感を積み上げ、自信をつけながら、苦手とする集団活動への参加意欲を高めていく。 ・不安定になった時に、気持ちを落ち着かせる手段を身に付け、不適切な行動を改善していく。不安や緊張を感じたら、気持ちを伝えることで安心したり、場を移して気持ちを落ち着かせたりする経験を積み重ね、相談する良さが実感できるようにする。 |

| | |
|---------------------------|--|
| 課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として | に基づき設定した指導目標を記す段階 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・感情や行動をコントロールする力を高め、情緒を安定させて生活する。 ・不安や緊張を感じた時に、相談することができる。 ・参加できる活動を増やし、「できた」「わかった」という成功体験を積み上げ、自己肯定感を高める。 |

| | | | | | | |
|----------------------|----------------------|-------------------------------------|-------------------|-------|-------|---|
| 指導目標を達成するために必要な項目の選定 | を達成するために必要な項目を選定する段階 | | | | | |
| | 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| | | (1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と対応に関すること | (3)自己の理解と行動に関すること | | | (2)言語の受容と表出に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること |

| |
|---|
| 項目と項目を関連付ける際のポイント |
| <p><不安定になったときに、適切に行動するとともに、情緒の安定を図りながら集団活動へ参加することができるようになるために>心(2)・コ(2)・コ(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が ア、心(1)・人(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が イである。</p> <p><安心できる環境の中で、成功体験を積み上げ、自信をつけ、自己を肯定的に捉えることが大切であることから>心(1)・人(3)・コ(2)・コ(5)を関連付けて具体的に設定した指導内容が ウである。</p> |

| | | | |
|-------------------------|--|--|--|
| 選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定 | 具体的な指導内容を設定する段階 | | |
| | ア | イ | ウ |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・混乱した時は、別室に行き、気持ちを落ち着かせることができる。 ・混乱した時の状況や気持ちを言語化して教師に伝える学習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・確実にできる活動から取り組み始め、成就感を味わうことを積み重ねる。 ・自信をつけて、自己を肯定的に捉えられるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の安心したグループの中で、友達と一緒に活動する楽しさを味わう。 ・人と関わることへの自信と意欲を育む。 |

個別指導計画

令和 年 月 日作成・更新 作成者:

【知的障害特別支援学級】

| | | |
|----|--------|--|
| 氏名 | 本人の願い | ・休み時間に友達と遊べるようになりたい。人の目が気にならないようになりたい。 ・自分の思いを書いたり、伝えたりできるようになりたい。 |
| | 保護者の願い | ・安心して教室で課題に取り組めるようになってほしい。クラスの人々と一緒に行動したり学習したりできるようになってほしい。 ・生活に関わる計算や読み書きができるようになってほしい。 ・学習したことを生活の中でも使えるようになってほしい。 |
| | 長期目標 | ・感情や行動をコントロールする力を高め、情緒を安定させて生活する。 ・参加できる活動を増やす。 ・将来の自立と社会参加にむけて、人との関わることへの自信をと意欲を高める。 |

| | | 実態 | 目標 | 主な指導内容 | 具体的な手だて | 評価 |
|-----|----|--|--|---|---|--|
| 教科等 | 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 話すことよりも書くことが得意である。 経験や見聞きしたことを簡単な言葉で話したり書いたりすることができるが、順序良く書いたり、自分の感想を加えたりすることは難しい。 | <p>友達の発表を聞いて、簡単なメモをとることができる。</p> <p>経験した事、見聞きしたことを「いつ・どこで・だれが・何をした」という要点をおさえて表現する。</p> | <p>休日の発表(話す・聞く)</p> <ul style="list-style-type: none"> 休日のことを発表する。 友達の発表を聞いてメモをとる。 <p>ニュース調べ(読む・書く)</p> <ul style="list-style-type: none"> 気になるニュースを読んだり、見聞きしたりして、内容をまとめたり、自分の考えを書いたりする。 | <p>「いつ・どこで・だれが・何をした」という要点で書き込めるワークシートを使用する。</p> <p>文章にする前に話を聞き取り、書きたいことを明確にしたり、内容を膨らませたりする時間を確保する。聞き取ったことを付箋に記して視覚化し、文を構成できるようにする。</p> | <p>感じたことを言葉で表すには支援が必要である。</p> <p>書きたいことが決まると「いつ・どこで・だれが・何をした」の要点を入れ、一人でまとめられた。日記でも書く順序が整理されてきた。</p> |
| | 数学 | <ul style="list-style-type: none"> 繰り上がり繰り下がりのある計算ができる。九九は覚えてはいるが、かけ算の意味理解は確実ではない。 数量は直接比較・間接比較はできるが、単位の関係は理解していないところがあり、生活の中で利用することはない。 | <p>乗法の意味を理解し、九九を利用することができる。</p> <p>1mのものさしを使い、mmの単位まで計ることができる。</p> | <p>乗法(乗法の意味・九九)</p> <p>長さ(単位の違い・1mまでの計測)</p> | <p>手がかかりとして、具体物、絵や図を示したり、同数累加の式使ったりして、乗法の意味の理解を確実にする。</p> <p>長さの単位を体感的に捉える活動を取り入れる。もの長さとして、使用するものさしのメモリの基準を学習内容で使い分け、掴ませたい単位、単位の違いを、より理解しやすくする。</p> | <p>乗法の立式カード・同数累加の立式カード・絵カードを正しく組み合わせることができ、倍と累加の概念が理解できるようになった</p> <p>mm、cm、mの大きさの違いがわかり、身近な物の長さを、ものさしを使って計測することができた。mm、cmの関係を理解し、簡単な換算ができた。</p> |

| | | | | | |
|------|---|--|--|---|---|
| 自立活動 | <ul style="list-style-type: none"> 不安や緊張を言葉で伝えることが難しいため、回避やパニックなどの行動を引き起こす。情緒が安定しているときでも、気分によって、活動に参加しないことがある。 対人面での緊張が顕著で、人と関係を築くまでに時間がかかる。意思の表出は特定の人の前であればできる。 体育・音楽・調理実習・実験・掃除等、他者と協調して行う活動には、参加が難しい。 視覚的情報があると理解しやすい。 話すことよりも書くことが得意である。 | <p>混乱したときの対処の仕方を身に付け、情緒が安定した状態で生活できるようにする。</p> <p>少人数のグループの中で、一緒に活動できる場面を増やす。落ち着いて参加できる授業時間を増やす。成就感を味わうことを積み重ね、自己を肯定的に捉える。</p> | <p>混乱した時には、別室に行き、気持ちを落ち着かせる手段を知る。</p> <p>混乱した時の状況や気持ちを言語化して教師に伝える学習をする。</p> <p>少人数で、本人が安心して過ごせるグループ編成の中で、友達と一緒に活動する楽しさを味わう。人と関わることへの自信と意欲を高める。本人が確実にできる活動から始め、成就感を味わうことを積み重ねる。</p> <p>緊張や不安を感じた時に、担任に自分の気持ちを言葉で伝えられる学習をする。</p> | <p>授業のルール、学校生活の約束事を文章と絵にして提示する。気持ちを静めるための場所、気持ちを落ち着けるために取り組む教材等を用意する。構造化された授業と環境、安心できるグループ構成、気持ちに寄り添った指導等により、学級の中でみんなと一緒に活動できることを増やしていく。</p> <p>授業が始まる前に、学習内容を個別に教える。活動を進める中で予想される困難があれば、その対処の仕方を事前に伝えておき、安心して参加できるようにする。</p> <p>言葉が出ないときは、本人の気持ちを汲み取って言語化して伝える。毎日、日記を書き、自分の思いを言葉に置き換える学習をする。</p> | <p>約束事を文章とともに絵にして提示したことで、教員の説明を補足し、本人が確認できるようになり、教室を飛び出し、校内を徘徊することがなくなった。混乱した時は、別室に行き、数学の計算プリント等に取り組みながら、一人で気持ちを静めることができるようになった。</p> <p>理科と英語の授業に参加できるようになった。苦手だったグループ活動も、版画の印刷作業では班の友達と一緒に活動できるようになった。作業の工程が分かるように事前に伝えることが有効だった。</p> <p>気持ちを口頭で伝えることは少ないが、文章で相手に伝えることで、不安の解決につながり、気持ちの切り替えが早くなった。</p> |
|------|---|--|--|---|---|

【事例2】言語障害通級指導学級

| | |
|--------------|---|
| 学校・学年 | 小学校・第2学年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 言語障害。話す、聞く等の言語発達の遅れ。自分の言いたいことをうまく表現できず、自信がない。 |

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ってほしい、など)

| | |
|-------|---|
| 本人から | <ul style="list-style-type: none"> ・友達に伝えたいことをうまく伝えられるようになりたい。 ・国語が得意になりたい。 |
| 保護者から | <ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって意見を言える子になってほしい。 |

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

- ・虫などの生き物が好きで、友達と虫取りをしたりしている。
- ・体を動かすことは好きだが、はさみやのり付けなどの細かい作業は苦手である。
- ・工作や料理が好きで、時々家の手伝いをする。
- ・自分の気持ちを相手にうまく伝えられずに、消極的になってしまうことがある。

3 支援の目標

- 身近な事柄や自分の気持ちを伝える活動を通して、語彙を増やし、言葉の理解力と表現力を高める。
- 相手の話を聞く活動を積み重ね、正確に聞き取る力を高める。
- 周囲の人と言葉でやりとりする経験を積み重ね、コミュニケーションに対する意欲や自信を高める。

| 学校の指導・支援 | 家庭の支援 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・本児が伝えたい内容を丁寧に聞き取り、正しい表現方法を伝える。 ・本児が自分から意欲的に発言した時には、即時評価して自信につなげる。 ・学習場面では動画や写真などの視覚教材を用いて、視覚的なイメージと言葉を結び付けられるようにする。 ・「指示ゲーム」や「音韻クイズ」などを通して、指示を正しく聞き取り、楽しみながら言葉を覚えられるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本児が誤った表現を用いて話しているときは、さりげなく正しい言葉を伝えるようにしている。 ・タブレット端末を活用した、言葉の理解に関する学習に、意欲的に取り組んでいるので、今後も継続していきたい。 ・家庭で休日に出かけたり、工作や調理を一緒に行ったりしながら、体験と言葉を結び付けて確認するようにしている。 |

自立活動の「流れ図」

【言語障害通級指導学級】

| | |
|--------------|---|
| 学校・学年 | 小学校・2年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 言語障害。話す、聞く等の言語発達の遅れ。自分の言いたいことをうまく表現できず、自信がない。 |
| 事例の概要 | 意味を理解して使える言葉を増やし、自分の気持ちや考えを周りに伝えられるようになることで、自信をもって物事に取り組めるようにする指導事例 |

| |
|--|
| 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について 情報収集 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・生き物が好きで友達と協力して、虫取りをしたりお世話をしたりすることができる。 ・自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えることができず、諦めてしまうことがある。 ・知っている言葉が乏しく、担任の一言指示を理解することが難しいため、個別に丁寧に伝える必要がある。 ・国語に苦手意識があり、自信がない。算数の文章問題にもつまずきが見受けられる。 ・工作や料理などが得意で、意欲的に取り組む。 |

| | | | | | |
|---------------------------------|--|---|--|--|---|
| - 1 収集した情報()を自立活動の区分に即して整理する段階 | | | | | |
| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| / | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の言いたいことがうまく表現できずに自信がない。 ・生き物が好きでよくお世話をする。 ・国語全般や算数の文章題に苦手意識がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・集団の活動におけるルールを理解することが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・担任の一言指示を理解することが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・工作や料理などが得意で、意欲的に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・言いたいことがあっても言葉がまとまらず諦めてしまう。 ・経験したことや、様々な事物を関連付けながら言語化することが難しい。 |

| |
|--|
| - 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習や生活の中で意味を理解している言葉が限られており、指示を理解して行動することが難しい。 ・自分の言いたいことが相手に伝わりにくかったり、相手の言うことが理解しにくかったりすることから、他者とのかわりが消極的になりがちである。 |

| |
|---|
| - 3 収集した情報()を5年後の姿の観点から整理する段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって自分の気持ちや考えを他者に伝えることができる。 ・コミュニケーションに対する意欲を高め、他者と積極的に関わることができる。 |

| |
|--|
| を基に - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・意味を理解して使いこなせる言葉が限られている。 ・言葉と言葉を関連付けて覚えたり、順序よく相手に話したりすることが難しい。 ・言語による他者とのやりとりで自信がもてず、積極的にコミュニケーションを図ることが難しい。 |

| |
|--|
| で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・様々な事物を関連付けながら言語化する活動を通じて、語彙の習得や上位概念、属性、関連語等の言語概念の形成を促す。 ・相手の話を正確に聞き取り、理解する力を高める。 ・相手に伝わったという成功体験を積み重ねることで自信を高め、周囲と円滑にコミュニケーションを図ることができる力を高める。 |

| | |
|---------------------------|--|
| 課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として | に基づき設定した指導目標を記す段階 |
| | ○身近な事柄や自分の気持ちを伝える活動を通して語彙を増やし、言葉の理解力と表現力を高める。 相手の話を聞く活動を積み重ね、正確に聞き取る力を高める。 周囲の人と言葉でやりとりする経験を積み重ね、コミュニケーションに対する意欲や自信を高める。 |

| | | | | | | |
|----------------------|----------------------|--------------------------------------|---|--|-------|---|
| 指導目標を達成するために必要な項目の選定 | を達成するために必要な項目を選定する段階 | | | | | |
| | 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| | | (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。 | (1)他者とのかかわりの基礎に関すること (2)他者の意図や感情の理解に関すること。 (3)事故の理解と行動の調整に関すること。 (4)集団への参加の基礎に関すること。 | (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。 | | (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2)言語の受容と表出に関すること。 (3)言語の形成と活用に関すること。 (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること。 |

| |
|---|
| 項目と項目を関連付ける際のポイント |
| <p><身近な事柄や自分の気持ちを伝える活動を通して語彙を増やし、言葉の理解力と表現力を高める> ために、人(1)(2)環(5)コ(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が アである。</p> <p><相手の話を聞く活動を積み重ね、正確に聞き取る力を高める> ために、人(1)(2)(3)(4)環(2)(5)コ(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が イである。</p> <p><周囲の人と言葉でやりとりする経験を積み重ね、コミュニケーションに対する意欲や自信を高める> ために、心(3)人(2)(3)(4)環(2)コ(1)(2)(4)(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が ウである。</p> |

| | | | |
|-------------------------|--|---|---|
| 選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定 | 具体的な指導内容を設定する段階 | | |
| | ア ・季節や行事、国語の内容に関連する言葉などについて、写真や動画などの視覚教材を手掛かりに言葉の理解を深める。 ・言葉の仲間集め、オリジナル言葉辞典作りなどを行い、語彙を増やす。 | イ ・指示に従って体を動かすゲームや3ヒントクイズなど、楽しみながら相手の話を聞いて理解する力を高める。 | ウ ・本児が得意な活動や、学校行事など自分が経験したことを順序よく伝える力を高める。 |

個別指導計画

【言語障害通級指導学級】

| | | | |
|--------------|--|----|----------------------|
| 氏名 | | 在籍 | 〇〇小学校 2年〇組（担任：〇〇 〇〇） |
| 児童・生徒の障害の状態等 | <ul style="list-style-type: none"> ・生き物が好きで友達と協力して、虫取りをしたりお世話をしたりすることができる。 ・自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えることができず、諦めてしまうことがある。 ・担任の一斉指示を理解することが難しいため、個別に丁寧に伝える必要がある。 ・国語に苦手意識があり、自信がない。算数の文章問題にもつまずきが見受けられる。 ・工作や調理学習などが得意で、意欲的に取り組む。 | | |
| 長期目標（年間） | <p>○身近な事柄や自分の気持ちを伝える活動を通して語彙を増やし、言葉の理解力と表現力を高める。</p> <p>相手の話を聞く活動を積み重ね、正確に聞き取る力を高める。</p> <p>周囲の人と言葉でやりとりする経験を積み重ね、コミュニケーションに対する意欲や自信を高める。</p> | | |

| | 短期目標 | 計画(指導内容) | 評価 |
|----|---|---|---|
| 前期 | (1) 身近な事柄について語彙を増やし、言葉への関心を高める。 (2) 簡単な口頭指示を聞き取って理解する。 (3) 好きな活動を通して言葉でのやりとりを楽しみ、発話意欲を高める。 | (1) 季節や行事に関する言葉や国語の単元に出てくる単語について、写真や動画などの視覚教材を用いて示し、視覚的なイメージと言葉を結び付けて理解する。 (2) 指示ゲーム(指示に従って体を動かしたり、宝探しをしたりする活動)を通して聞いて理解する力を高める。 (3) 工作など本児が得意な活動において、言葉を通してやりとりすることが楽しいと思える経験を他者と共有する。 | (1) 視覚教材を見て、自分から名称を尋ねたりするなど、身近な事柄に関する言葉への関心が高まってきた。言葉を想起するまでに時間がかかるときは、頭文字をヒントに出すと、思い出せるようになった。 (2) 指示ゲームでは、徐々に長い内容の指示にしながら、文章を聞き取る練習をした。ゲーム性をもたせたことで、意欲的に取り組むことができた。指示の内容が長くなると、必要な情報を聞き逃すことがあったため、文の長さを調整しながら今後も継続して取り組む。 (3) 本児が得意としている活動において、言葉で通じ合う経験を積み重ねたことにより、安心した様子で表現することが増えた。家庭と連携し、同じ活動を行ったことは、使い方が分かる言葉を増やしたり、表現の定着を図ったりする上で効果的であった。 |
| 後期 | (1) 身近な事柄について、言葉と言葉とを関連付けて考えたり話したりする活動を通して、言葉の理解を深める。 (2) 簡単な口頭指示を聞き取って推測する。 (3) 身近な事柄や体験したことに関するやりとりを通して、言葉で表現する力を高める。 | (1) 言葉の仲間集め、オリジナル言葉辞典作りなどを行い、語彙を増やす。 (2) 3ヒントクイズなどを通して聞いて考える力を高める。 (3) 休日の話や学校行事など経験したことを思い出し、適切な言葉や表現方法を確認する。 | (1) 生き物図鑑を作る活動では、住んでいる場所や好きな食べ物などを調べてまとめた。好きな事柄を取り扱ったことにより、読んだり書いたりすることに抵抗感をもつことなく、楽しみながら言葉を覚えていくことができた。 (2) 3ヒントクイズでは始めはヒントカードを見て当てはまるものを選んだ。3つのヒントを記憶することが徐々にできるようになった。3学期にはカード無しでも、ヒントをもとに答えを推測することができるようになってきた。 (3) 毎回一つのテーマで話す活動をした。「いつ」「どこで」などの質問カードを手掛かりに、相手が分かるように伝えることが意識できるようになった。担当が聞き取って書いたメモを基に、最後に、自分で文章を組み立てて話すことができるようになってきた。 |

【事例3】弱視通級指導学級

| | |
|--------------|--|
| 学校・学年 | 小学校・第4学年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 弱視 視力:(両眼とも)裸眼・0.08、矯正・0.1 最大視認力:0.6(4cm) 補助具:単眼鏡、近用レンズ |

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ってほしい、など)

| | |
|-------|--|
| 本人から | <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊びたい。 ・自分のことは自分でやりたい |
| 保護者から | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人と関わり、優しい気持ちのある人に育ってほしい。 |

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

- ・単眼鏡や近用レンズなどの視覚補助具の操作が得意である。
- ・タブレット端末やPCに興味をもっており、操作方法を身に付けたいという意欲がある。
- ・自分の見え方を友達にうまく説明することができず、戸惑う場面が増えてきている。

3 支援の目標

- ・中学校や高等学校、大学進学に向けて、視覚補助具や情報機器の活用方法を身に付ける。
- ・自分の見え方を説明する力を付けたり、適切な援助依頼の方法を身に付けたりする。

学校の指導・支援

- ・タブレット端末など情報機器の操作方法の指導を行う。
- ・「私見え方カード」などを作成し、自分の見え方や必要な支援を理解し、適切に説明できるような指導を行う。
- ・まぶしさなどに配慮した座席配置や室内照明を行う。
- ・板書を行う際は、チョークの色や場所を配慮する。

家庭の支援

- ・公共交通機関等の利用機会を増やし、視覚補助具等を活用する機会を意識的に設ける。
- ・長期休業日や休日を活用し、様々な体験ができるような場や機会を設ける。

自立活動の「流れ図」

【弱視通級指導学級】

| | |
|--------------|--|
| 学校・学年 | 小学校・4年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 弱視 視力：0.08(0.1) 0.08 (0.1) 最大視認力：0.6(4cm) 補助具：単眼鏡、近用レンズ |
| 事例の概要 | 視覚補助具を活用して、在籍学級で板書や提示された教材を見ることができる。算数や理科で使う道具の使い方を身に付けることやタブレット端末を活用する力をつけることを目標とする指導事例 |

| |
|---|
| 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について 情報収集 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活動作は自立しており、運動や歩行能力には、問題ない。(身体の動き) ・慣れている場所では、単眼鏡の操作が得意で、ピント調整を短時間で行うことができる。(環境の把握) ・友達の前で視覚補助具を使うことを嫌がる場面が見られるようになった。(人間関係の形成) ・コンパスなど、初めて扱う道具に苦手意識があるが、自分の見え方について伝えられず、援助や支援を頼むことが難しい。(身体の動き、心理的な安定、コミュニケーション) ・タブレット端末に興味があり、学習場面で活用したいという意欲が高い。(環境の把握、心理的な安定) ・はさみやカッターなどの身近な道具の操作は身に付いている。 ・画数の多い漢字は書き間違いが多い。 |

| | | | | | |
|---|--|---|---|---|--|
| - 1 収集した情報()を自立活動の区分に即して整理する段階 | | | | | |
| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| <ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かす運動を好む。 ・自分の見え方については理解しているが他者への説明が十分でない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・初めてのことに自信がない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友達の前で視覚補助具を使うことに対して、抵抗を見せる場面がみられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校外での単眼鏡等の使用経験が少ない。 ・形状が類似している別のものと見間違えることがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手指の巧緻性、目と手の協応に苦手意識がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて自分の見え方を伝えることが難しい。 |

| |
|--|
| - 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級において、単眼鏡で板書や提示された教材を見ることができる。(環) ・理科や図画工作で使う道具は、個別に練習をすれば安全に扱うことができる。(身) ・体育館や講堂など広い環境での単眼鏡の使用に慣れていない。 ・タブレット端末などの操作に慣れていない。 |

| |
|---|
| - 3 収集した情報()を3年後の姿の観点から整理する段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関を利用した移動ができるようになる。 ・自分の見え方について理解し、他者に伝え、必要な支援が得られるようになる。 |

| |
|---|
| をもとに - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・戸外での視覚補助具を活用した情報収集の技術を身に付ける必要がある。(環) ・タブレット端末を活用し、視覚補助具として活用する経験が必要である。(環) ・初めて扱う道具や操作に対する不安を減らし、他者に援助を依頼する力を身に付ける必要がある。 |
| (心)(人)(コ) |

| |
|--|
| で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級など、慣れた場所では、単眼鏡や近用レンズなどの視覚補助具を活用することができている。今後は、特別教室や校外で活用できる力を高める。 ・在籍学級において、教室のやや後方の座席から、タブレット端末で板書を撮影し、それを視写する力を身に付ける。さらに、自分の見え方や必要な援助について整理し、他者へ伝えることができるように障害理解やコミュニケーションに関する指導も実施する。 |

| | |
|---------------------------|---|
| 課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として | に基づき設定した指導目標を記す段階 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・特別教室や校外等において、視覚補助具を活用する力を身に付ける。 ・在籍学級において、タブレット端末を活用する。 ・自分の見え方について、友達に説明できるようにする。 |

| | | | | | | |
|----------------------|----------------------|--|----------------------|--|--------------------------|---------------------------|
| 指導目標を達成するために必要な項目の選定 | を達成するために必要な項目を選定する段階 | | | | | |
| | 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| | | (2)状況の理解と変化への対応に関すること。 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。 | (1)他者とのかわりの基礎に関すること。 | (1)保有する感覚の活用に関すること。 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。 | (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。 | (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること。 |

| |
|---|
| 項目と項目を関連付ける際のポイント |
| <ul style="list-style-type: none"> ・特別教室や校外において、視覚補助具を活用する力を身に付けるために、心(3)環(1)(3)(4)を関連付けて設定した具体的な指導内容は ア及びイである。 ・在籍学級において、タブレット端末を活用するために、心(2)(3)環(1)(3)(4)(5)身(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容は ウである。 ・自分の見え方について、友達に説明できるようにするために、心(3)人(1)環(1)コ(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容は エである。 |

| | | | | |
|-------------------------|--|---|---|---|
| 選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定 | 具体的な指導内容を設定する段階 | | | |
| | ア | イ | ウ | エ |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・全校や学年単位での活動時に単眼鏡で対象物を捉え、ピントを合わせて正しく読み取る。 ・駅などで時刻表や運賃表を単眼鏡で正しく読み取る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や移動教室において、駅の表示やバスの行先表示等を見る機会を多く設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・板書の読み取りや理科の観察や実験の記録に活用できるよう、カメラアプリを円滑に操作する力を身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の見え方を説明し、困っているときに、周囲の人に説明し援助を求めることができるようにする。 |

個別指導計画

【弱視通級指導学級】

| | | | |
|---------------|---|----|----------------------|
| 氏名 | | 在籍 | 〇〇小学校 4年〇組（担任：〇〇 〇〇） |
| 児童の障害の状態等 | <ul style="list-style-type: none"> ・先天性白内障 視力:0.08(0.1)、0.08 (0.1) 最大視認力:0.6(4cm) ・日常生活動作は自立しており、運動や歩行能力にも、問題ない。 ・視覚補助具を活用して、在籍学級で板書や提示された教材を見ることができる。 ・慣れた場所では、単眼鏡の操作が得意で、ピント調整を短時間で行うことができる。 ・友達の前で視覚補助具を使うことを嫌がる場面が見られるようになった。 ・コンパスや分度器など、初めて扱う道具に苦手意識がある。 ・はさみやカッターなどの身近な道具の操作は身につけている。 ・画数の多い漢字は書き間違いや読み間違いが多い。 | | |
| 在籍学級での指導と配慮事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・板書を行う際は、チョークの色に配慮する。注目する場所などは、目立つ色のマグネットなどを使ってマークを作る。 ・まぶしさを配慮し座席位置は、廊下側の最前列若しくは2列目とする。 ・初めて行く場所、建物などは、丁寧にファミリーゼーションを行い、危険箇所等がわかるようにする。 | | |
| 家庭との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の利用頻度を多くし、交通機関の利用方法や戸外での単眼鏡等の視覚補助具の使用に慣れる。 ・眼科の主治医や視能訓練士と連携を図り、眼鏡や補助具の選定について意見交換を行う。 | | |
| 長期目標 (年間) | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使って、板書や提示された教材を見ることができるようになる。 ・自分の見え方について、説明できるようになる。 ・教室以外で、視覚補助具を活用できるようになる。 | | |

| | 指導目標 | 学習内容 | 評価 |
|----|---|-------------------------------|--|
| 前期 | 教室外での視覚補助具を活用できるようになる。 タブレット端末の操作に慣れる。 自分の見え方を理解する。 | 単眼鏡の活用 カメラアプリの活用 見え方の説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・在籍校において全校や学年単位での活動の際に、単眼鏡を活用しパワーポイントなどで表示されたものを見ることができるようになった。 ・カメラアプリを起動し、ピントを合わせるまでスムーズにできるようになってきた。タブレット端末をどの方向に向ければよいか迷うことがあった。 ・どのような時に見えにくいのか、どうすれば見やすいかを文章にすることができた。 |
| 後期 | 校外での視覚補助具を活用できるようになる。 在籍学級でタブレット端末を使用する。 自分の見え方を説明する。 | 単眼鏡の活用 カメラアプリの活用 見え方の説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・校外で、駅の運賃表や時刻表示などを確認することができた。人が多い中で単眼鏡を素早く操作できるようにする必要がある。 ・ズーム機能やオートフォーカスについてスムーズに操作できるようになってきた。 ・「自分の見え方紹介カード」を作成し、弱視通級学級の友達に説明することができた。進級後、在籍学級の友達に説明できるように、在籍学級担任と説明時間の設定や内容について情報を共有する。 |

【事例4】難聴通級指導学級

| | |
|--------------|------------------------------------|
| 学校・学年 | 小学校・第1学年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 難聴(平均聴力レベル右 58dB、左 65dB)。両耳に補聴器装用。 |

学校生活支援シート(個別の教育支援計画)

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ててほしい、など)

| | |
|-------|---|
| 本人から | ・友達とたくさん遊んで、いろいろな勉強がしたい。 |
| 保護者から | ・周りとうまくコミュニケーションをとって、友達と仲よく過ごしてほしい。 ・聞こえない時や分からない時に自分で周囲に尋ねられるようになってほしい。 |

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

- ・鉄棒やダンス、縄跳びなど、身体を動かすことが好き。
- ・補聴器の電池が切れているのに気付かないことがある。
- ・主語や目的語が抜けて、相手に伝わらないことがある。
- ・発音が不明瞭な音がある(サ行音やツ音など)。

3 支援の目標

- ・自分の聞こえの状態を把握する力を高めるとともに、補聴器を適切に管理する習慣を身に付ける。
- ・聴覚を活用し、語音を正しく聞き取る力や、正しい発音を意識して話す力を高める。
- ・話し手に注目して話を聞いたり伝えたりする態度を身に付け、周囲の人とやりとりする楽しさを味わう。

学校の指導・支援

- ・机や椅子にテニスボールを付けて、騒音を減少させる。
- ・座席を前から2, 3列目の聞き取りやすい側に配置する。
- ・視覚教材を多く使い、見て分かる工夫をする。
- ・黒板側を向いたまま話さず、児童が注目していることを確かめてから話し始める。

家庭の支援

- ・休日は色々なところに出かけ、経験を多く積むようにする。
- ・知らない言葉は、文字で書き表して確認する。
- ・やりとりが曖昧にならないように、丁寧に話しをする。
- ・補聴器の掃除や管理を一緒に行うようにする。

自立活動の「流れ図」

【難聴通級指導学級】

| | |
|--------------|--|
| 学校・学年 | 小学校・1年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 難聴(平均聴力レベル右 58dB、左 65dB)。両耳に補聴器装用。 |
| 事例の概要 | 補聴器を適切に管理する習慣を身に付けることや、話すことや聞くことに自信をもち、伝えようとする意識を高めることを目標とする指導事例 |

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

- ・補聴器を装用して、概ね音声でのやりとりが可能であるが、話がずれてしまうことがある。
- ・補聴器の電池が切れていても気付かないことがある。
- ・班での話し合いでは、周囲の話し声等により、友達の声が聞こえづらく、話し合いに入れないことがある。
- ・指示が一度では通じないことも多く、個別に丁寧な言葉かけが必要である。
- ・周りをよく見て動いているが、聞こえなかったことや分からなかったことを周囲に尋ねることができない。
- ・初めてのことに慎重になる。慣れてやり方が分かると楽しむことができる。
- ・知っている言葉が少なく、言葉の覚え間違いも多い。
- ・発音が不明瞭な音がある(サ行音やツ音など)。
- ・鉄棒やダンスなど、身体を動かすことが得意で、休み時間など、友達と進んで遊ぼうとする様子がある。

- 1 収集した情報()を「自立活動の区分に即して整理する段階

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|---|---|---|--|--|--|
| ・補聴器の電池が切れていても気付かないことがあるなど、自分の聞こえの状態を意識したり、補聴器を適切に管理したりする習慣が身に付いていない。 | ・他者に伝えることに不安があり、自分の意見を言わないままになってしまうことがある。 | ・周りをよく見て動いているが、聞こえなかったことや分からなかったことを周囲に尋ねることができない。 | ・補聴器を装用して、概ね音声でのやりとりが可能である。 ・周囲の話し声等により、友達の声が聞こえづらく、話し合いに入れないことがある。 | ・鉄棒やダンスなど、身体を動かすことが得意である。 ・発音が不明瞭な音がある(サ行音やツ音など)。 | ・話がずれてしまうことがある。 ・知っている言葉が少なく、言葉の覚え間違いも多い。 |

- 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・補聴器の電池が切れても自分では気付かないことがあることなどから、自分の聞こえの状態や補聴器の管理について意識を高める必要がある。
- ・聞き取れなかったことを周囲に聞いたりすることが難しく、分からないままになっていることが多い。
- ・友達の様子に関心があり、身体を動かして一緒に遊ぶことはあるが、会話などの場面では様子を見ている。

- 3 収集した情報()を6年後の姿の観点から整理する段階

- ・補聴器や視覚的な手掛かりなどを積極的に活用し、周囲の状況を把握する力を高める。
- ・相手の話を意識して聞いたり、主体的に自分の意思を伝えたりする力を高め、安心して周囲の人とやり取りができる力を身に付ける。

を基に - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・自分の聞こえの状態を把握することや、補聴器を適切に管理することが定着していない。
- ・人とのやりとりにおいて話したり聞いたりすることや、分からないことを質問したりすることが難しい。

| |
|---|
| で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・補聴器の適切な管理の仕方を身に付け、補聴器の装用により、保有する聴覚を活用できるようにする。 ・聞こえにくさや聞き取れなかったことを周囲に伝えられるようにする必要がある。周囲に伝えられるようになるために、正しい発音を習得して発話の明瞭度をあげ、相手に分かりやすく伝えられるようにする。 ・話し相手に注目し、話しを聞いたり、伝えたりする態度を身に付ける。 |

| | |
|---------------------------|--|
| 課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として | に基づき設定した指導目標を記す段階 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の聞こえの状態を把握する力を高めるとともに、補聴器を適切に管理する習慣を身に付ける。 ・聴覚を活用し、語音を正しく聞き取る力や、正しい発音を意識して話す力を高める。 ・話し手に注目して話を聞いたり伝えたりする態度を身に付け、周囲の人とやりとりする楽しさを味わう。 |

| | | | | | | |
|----------------------|------------------------|---|--|---|--------------------------|---|
| 指導目標を達成するために必要な項目の選定 | を達成するために必要な項目を選定する段階 | | | | | |
| | 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| | (2)病気の状態の理解と生活管理にすること。 | (1)情緒の安定に関すること。 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。 | (1)他者とのかかわりの基礎に関すること。 (2)他者の意図や感情の理解に関すること。 | (1)保有する感覚の活用に関すること。 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 | (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。 | (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2)言語の受容と表出に関すること。 (3)言語の形成と活用に関すること。 |

| |
|---|
| 項目と項目を関連付ける際のポイント |
| <p>< 自分の聞こえの状態を把握することや補聴器を適切に管理する習慣を身に付けるために > 健(2)、環(1)(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が アである。</p> <p>< 保有する聴覚を活用し、聞き取る力や正しい発音を意識して話す力を高めるために > 環(1)(3)、身(5)、コ(2)を関連付けて設定した具体的な指導内容が イである。</p> <p>< 話し手に注目して話を聞いたり伝えたりする態度を身に付け、周囲の人とやりとりする楽しさを味わうために > 心(1)(3)、人(1)(2)、コ(1)(2)(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が ウである。</p> |

| | | | |
|-------------------------|--|---|--|
| 選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定 | 具体的な指導内容を設定する段階 | | |
| | ア 聞こえの状態を確認し、補聴器の電池の有無やイヤーマールド(耳型)の汚れ、正しい装用状態を自分で確かめる習慣を身に付ける。 | イ 聞き取りクイズなどで必要な情報を聞き取る力を高める。正しい発音を意識する(サ行音・ツ音)。 | ウ お話タイムにおいて身近な内容を話したり、聞いたりして、やりとりする楽しさを味わう。季節の言葉プリントなどで身近な言葉の理解を深める。 |

個別指導計画

【難聴通級指導学級】

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 氏名 | 〇〇小学校 1年〇組 (担任: 〇〇 〇〇) | | |
| 児童の障害の状態等 | <ul style="list-style-type: none"> ・両耳先天的感音性難聴 (平均聴力レベル右 58dB、左 65dB)。両耳に補聴器装用。 ・補聴器を装用して、概ね音声でのやりとりが可能であるが、話がずれてしまうことがある。 ・補聴器の電池が切れていても気付かないことがある。 ・班での話し合いでは、友達の声が聞こえずに、輪に入れないことがある。 ・指示が一度では通じないことも多く、個別に丁寧な言葉掛けが必要である。 ・周りをよく見て動いているが、聞こえなかったことや分からなかったことを周囲に尋ねることが難しい。 ・知っている言葉が少なく、言葉の覚え間違いも多い。発音が不明瞭な音がある (サ行音やツ音など)。 | | |
| 在籍学級での指導と配慮事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し手に注目し、話を確実に聞いたり伝えたりしようとする態度を育てる。 ・本児の考えを認めるとともに、周りの様子を見て行動する意識を高める。 <配慮事項> ・テニスボールを付けて、騒音を減少させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・座席を前から 2, 3 列目の聞き取りやすい側に配置する。 ・視覚教材を多く使い、見て分かる工夫をする。 ・教員は児童が注目していることを確かめてから話し始める。黒板を向いて話さない。 | | |
| 家庭との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートや面談、授業参観などで、聞こえやことば、学習の様子について話し合い、本児の課題や目標を共通理解する。 ・家庭でのやりとりの配慮点、補聴器の自己管理の習慣などについて、相談、支援する。 | | |
| 長期目標 (年間) | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の聞こえの状態を把握する力を高めるとともに、補聴器を適切に管理する習慣を身に付ける。 ・聴覚を活用し、語音を正しく聞き取る力や、正しい発音を意識して話す力を高める。 ・話し手に注目して話を聞いたり伝えたりする態度を身に付け、周囲の人とやりとりする楽しさを味わう。 | | |

| | 指導目標 | 学習内容 | 評価 |
|----|--|---|---|
| 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ○聞こえの状態について理解し、補聴器を適切に管理する意識を高める。聞き取る力を高め、正しい発音を意識する。 ○身近な内容を話したり、聞いたりしてやりとりする楽しさを味わう。 | 補聴器について <ul style="list-style-type: none"> ・電池チェック ・クリーニング ・聞こえの状態 お話タイム 季節の言葉プリント グループ活動 聞き取りクイズ サ行音・ツ音の発声練習 | <ul style="list-style-type: none"> ・入学後しばらくして、補聴器の使用が定着した。聞こえにくさや補聴器の大切さについて自覚し始めた。電池の交換にも慣れ、一人でできるようになったが、電池切れに気付かないことがある。 ・お話タイムでは休日の出来事をホワイトボードにメモした後、文章にして発表した。間違えて覚えている単語はその都度確認した。 ・聞き取りクイズでは、静かな個別の場面では口形を提示せずとも、単音・単語・数字ともに聞き取ることができている。学級内で話し合い活動があるときなど、聞き返しも多く、会話が成り立たないこともあるので、引き続き聞き取りの力を高めるとともに、視覚的な補助手段も使いながら、コミュニケーションの力を高めていく。 ・発音練習では、サ行の音が単語レベルまで意識すればほぼ正音で発音できるようになった。短文レベルでも意識できるよう、練習を重ねる。 |
| 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ○聞こえの状態について理解し、補聴器を適切に管理する習慣を身に付ける。 ○聞き取る力を高め、正しい発音を意識する。 ○身近な内容を確実に伝えたり、相手の話を最後まで聞こうとしたりする意識を高める。 | 補聴器について <ul style="list-style-type: none"> ・電池チェック ・クリーニング ・聞こえの状態 お話タイム 季節の言葉プリント 絵本読み グループ活動 聞き取りクイズ サ行音・ツ音の会話レベルでの般化 | <ul style="list-style-type: none"> ・補聴器の扱いに慣れ、電池チェックや交換が一人でスムーズにできるようになった。 ・前期はお話タイムに話したいことがまとまらず、時間を要していたが、後期はヒントがなくても、「いつ」「どこで」などの質問カードに沿って話すことができるようになり、自信がついてきた。 ・学校や図書館で借りた本の音読では、スラスラ読めるものの、意味を理解していない単語や文章もあり、その都度丁寧に確認を行った。 ・グループ活動では、同じ難聴の友達との交流を非常に楽しんでいて、補聴器を使用している友達が他にもいることがとても嬉しかったようで、その後も友達の補聴器の色やイヤーマーモールドの模様のお話を繰り返している。 ・聞き取りクイズでは、個別指導の静かな場面では概ね聞き取れているが、長い文章になると混乱することがあった。今後は、聞こえにくさだけでなく、聞いたことをイメージする力や記憶力を高める課題にも取り組む。 ・発音練習では、サ行音・ツ音が会話内でもほぼ置換せずに正音で発音できるようになった。構音検査では単語レベルで全ての音を正音で発音できるようになった。 |

【事例5】特別支援教室（学習障害）

| | |
|--------------|---|
| 学校・学年 | 中学校・第1学年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 学習障害。板書の書き写しに時間がかかるなど、書字に困難さがあり、学習に対する自己肯定感が低い。 |

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ってほしい、など)

| | |
|-------|---|
| 本人から | <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと仲良く学校生活を送りたい。 ・漢字を正しく書けるようになりたい。思ったことや考えたことをちゃんと作文にしたい。 |
| 保護者から | <ul style="list-style-type: none"> ・書くことが苦手なので、合理的配慮としてタブレットを活用させたい。 ・話をよく聞き、周りを見て行動できるようになってほしい。 |

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・書くことが苦手で、記入に時間がかかり、時間内にノートに写しきれない。 ・学習に関して自信がないが、パソコンのタイピングは早く、漢字の変換は正しくできる。 ・全体に対しての指示を聞き取ることが苦手で、指示や話の内容を聞き漏らすことがある。 ・学習だけでなく、いろいろなことに自信がもてない様子がある。 |
|---|

3 支援の目標

| <ul style="list-style-type: none"> ・書くことに関する負担の軽減を図る。 ・本人が苦手だと考えていることを補う手段と一緒に考え、学校生活において代替手段を活用できるようにする。 ・全体への指示を本人にも確認し、周囲に合わせて行動できるようにする。 ・学習や学校生活全般において、本人が得意なことを生かして、成功体験を積み重ね、自己肯定感を高められるようにする。 | |
|--|--|
| 学校の指導・支援 | 家庭の支援 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやタブレット端末を使い、書字の負担軽減を図る。 ・一斉指示のあとに、個別に指示を確認し、聞き漏らさないようにする。 ・書字に代わる手段を、本人が進んで活用したり、本人が周りに合わせて行動できるようにしたりできるように、学級の生徒への理解啓発を図る。 ・自己肯定感が低下しないように、家庭と連携して、本人のよさを認める言葉掛けを多くする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・電話や連絡帳等で、学級担任、特別支援教室担任と連絡を取り、学校と家庭で連携しながら支援していく。 ・「できない」「やりたくない」等の発言を受け止め、本人の良い面を認めながら、前向きに取り組めるように、言葉を掛ける。 ・学級担任や学年だより等を通じて得た学校の情報を基に、家庭でも積極的に学校生活について話題にする。 |

自立活動の「流れ図」

【特別支援教室】

| | |
|--------------|---|
| 学校・学年 | 〇〇中学校・第1学年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 学習障害(書字障害) |
| 事例の概要 | 書字に代わる学習方法を身に付けるなど、本人が得意なことを生かした学習方法を身に付け、学習に取り組めるようにする指導事例 |

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

- ・形を整えて字を書くことが苦手である。板書を書き写すには、時間を要する。
- ・ゲームやパソコンに興味・関心が高く、知識もある。
- ・パソコンの操作は得意で、タイピングは早い。手書きでは、漢字を思い出すのに時間はかかるが、タイピングの時には、漢字を正しく変換できる。
- ・書字の代替手段として、少しずつタブレット端末を活用し始めたところである。
- ・一斉指示や相手の話を聞き逃すことが多く、同時に二つ以上のことを言われると聞き漏らすことがある。
- ・繊細で傷つきやすい性格で、人前で話すことが苦手である。
- ・感受性が強く、人の気持ちを思いやることができる。

- 1 収集した情報()を「自立活動」の区分に即して整理する段階

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--|---|--|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・書字の代替手段としてタブレット端末を活用し始めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・繊細で傷つきやすい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・感受性が強く、人の気持ちを思いやることができる。 ・一斉指示を聞き逃し、周りに合わせて行動することが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・形を整えて書くことが苦手。 ・板書の視写には時間を要する。 ・手書きだと漢字を思い出すのに時間がかかる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タイピングは早い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・同時に二つ以上のことを言われると聞き漏らすことがある。 ・人前で話すことは苦手。 |

- 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・学習においては、書きの困難があり、板書が写しきれなかったり、宿題に時間がかかったりする。
- ・書くことの心理的な不安や作業負担から、学習内容が十分に身に付いておらず、学習意欲が低下している。
- ・一斉指示を聞き逃してしまうことを要因の一つとして、集団に合わせて行動することが難しい。
- ・パソコンやタブレット端末の使い方は理解しているが、人目を気にして、十分な活用には至っていない。

- 3 収集した情報()を卒業後の姿の観点から整理する段階

- ・将来社会に出た時には、パソコンやタブレット端末等の情報機器を、書字や聞き取りの困難さを補う手段として使用するに抵抗感はなくなると考えられる。
 - ・本人自身が、将来は、タブレット端末があれば、書くことが苦手でも何とかやっていけそうだと考えている。
- <将来に向けて必要と考えられること>**
- ・自分の苦手なことを理解し、困難さを補う手だてを知ること。
 - ・書字や、指示等を聞き取ることの困難さに対する代用・補足の手段の活用ができるようになること。
 - ・書字の負担を軽減するとともに、必要な場面では、整った字を書けるようにすること。
 - ・周囲の人に、配慮してほしいことを説明できるようになること。

| |
|---|
| を基に - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・書字に関する心理的負担及び作業の負担の軽減を図ることで、必要とされる場面では、整った字が書けるようになる必要がある。 ・タブレット端末等、ICT 機器を書字の代用手段として活用できるよう、習熟を図る必要がある。 ・学力不振による学習意欲や自己肯定感の低下が、学習以外の生活上のことについても意欲や自信の低下につながっている。 |

| |
|--|
| で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・書くことが苦手である特性に加え、聞き漏らしてしまうことがあるという実態がある。学習面での自信のなさ、自己肯定感の低下につながったと考えられる。生活面においても自信をもてないことが多い。 ・学習上、生活上の困難の改善・克服には、書くことを補う手段の活用を促し、集中できる時間の伸長、作業に要する時間の短縮化を図る必要がある。 ・学習上の困難の改善を図ることで、学習面、生活面における自信を少しずつ向上させ、前向きな姿勢で学校生活を送れるようになると考えられる。 |

| | |
|---------------------------|--|
| 課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として | に基づき設定した指導目標を記す段階 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学習方法を学び、学校生活の中で実践することができる。 ・書字に代わる方法を身に付け、学習への意欲を高めて取り組めるようになる。 ・自己理解を育み、自己肯定感を高めることで、前向きな姿勢で対応する力を付ける。 |

| | | | | | | |
|----------------------|---------------------------|-------------------------------------|----------------------|--|-------------------------|----------------------------|
| 指導目標を達成するために必要な項目の選定 | を達成するために必要な項目を選定する段階 | | | | | |
| | 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| | (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること | (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること | (3)自己の理解と行動の調整に関すること | (2)環境や認知の特性についての理解と対応に関すること (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること | (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること | (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること |

| |
|---|
| 項目と項目を関連付ける際のポイント |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学習方法を学び、学校生活の中で実践するために、健(4)、環(2)(3)、身(5)、コ(4)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、アである。 ・書字に代わる学習方法を身に付け、学習への意欲を高めるために、人(3)、環(2)(3)、身(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、イである。 ・自己理解を育み、自己肯定感を高めることで、前向きな姿勢で対応する力を付けるために、健(4)、心(3)、環(2)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、ウである。 |

| | | | |
|-------------------------|---|---|---|
| 選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定 | 具体的な指導内容を設定する段階 | | |
| | ア | イ | ウ |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・書くことと併用して、タブレット等 ICT 機器を学習場面で活用できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意なことを生かして、書字を補う手段を身に付ける。 ・学習での成功体験を重ね、学習への意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を育む学習により、得意、不得意を本人が認められるようにする。 |

個別指導計画

令和 年 月 日作成

【通常の学級】

作成者()

| | | | |
|-------------|--|------------|-------|
| 生徒名 | 1 年 ○組 | | |
| 学校名 | ○○中学校 | 校長名 | ○○ ○○ |
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・書くことに関する負担の軽減を図り、学習意欲を高めて学習に取り組めるようになる。 ・個別の指示を少しずつ減らし、全体への指示で集団に合わせた行動できるようになる。 ・学習や学習以外のことにも、前向きな姿勢で取り組めるようになる。 | | |

本人・保護者の願い

- (本人) ・友達と仲良く学校生活を送りたい。
 ・漢字を正しく書けるようになりたい。思ったことや考えたことをちゃんと作文にしたい。
- (保護者) ・書くことが苦手なので、合理的配慮としてタブレットを活用させたい。
 ・話をよく聞き、周りを見て行動できるようになってほしい。

生徒の実態及びこれまでの経過

連携外部機関

- ・書く作業の負担を感じ、板書を写すのに時間がかかり、時間内にノートに写しきれない。
- ・学習内容の理解が不十分で、学習に対する意欲と自己肯定感が低い。
- ・パソコンを使ったタイピングが早くできる。
- ・一斉指示での聞き逃しがあり、周りに合わせて行動することが難しい。

教育センター
 ○○病院
 ○○塾

| | 指導目標 | 支援・手立て | 指導の経過及び評価 |
|-------------|---|--|---|
| 学習面 | <ul style="list-style-type: none"> ・書く作業の負担を軽減し、学習内容に集中できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・板書を書き写す部分を調整し、書く時間を十分に確保する。 ・ワークシートには、十字リーダーを入れたり、書きやすいサイズのマス目を表示したりして、字を整えて書けるようにする。 ・タブレット端末を学習中に使用できるよう環境を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・書字の負担が減ったことで、集中して授業に参加できるようになってきた。 ・理科や社会科で少しずつタブレット端末の活用を始めた。 |
| 集団生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・担任や友達の言葉掛けで、周りに合わせて行動できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体指示に続いて個別に指示をする。 ・学級の生徒に対し、本人と一緒に、特性等についての理解啓発を行い、学級全体で支援できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学期の始めは、個別に指示を行ったが、周りの生徒が、行動を促しており、本人も友達からの関わりを受け入れ、周りに合わせて行動できるようになってきた。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本人が得意だと思っていることをほめたり、できたことを即時に評価したりして、自己肯定感を高められるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・タイピングや体育など得意なことを中心に認める言葉掛けをした。友達から褒められたことが嬉しかったと本人が振り返っていた。 |

生徒の変容と引継ぎ事項

- ・一部の授業では、タブレット端末を活用した学習方法が定着してきた。
- ・書く分量の調整等をしながら、書くこととタブレット端末を使用とを併用していけるようにする。
- ・自己肯定感を低下させないよう、引き続き本人の得意なことやできたことを褒めて伸ばしていく。

【特別支援教室】

作成者()

| | | | |
|-----------|---|----|------------------------|
| 生徒氏名 | | 在籍 | 〇〇中学校 1年〇組 (担任: 〇〇 〇〇) |
| 保護者の願い | <ul style="list-style-type: none"> ・書くことが苦手なので、合理的配慮としてタブレット端末を活用させたい。 ・話をよく聞き、周りを見て行動できるようになってほしい。 | | |
| 長期目標 (年間) | 自分に合った学習方法を学び、学校生活の中で実践することができる。 書字に代わる学習方法を身に付け、学習内容に集中して取り組めるようになる。 自己理解を育み、自己肯定感を高めることで、前向きな姿勢で対応する力をつける。 | | |

通室回数・時数(略)

1 学期

| 短期目標(学期) | | |
|---|---|---|
| 1 学期 | 状況に応じて、タブレット端末などの ICT 機器を活用する方法を身に付ける。 自己の特性を理解し、自己肯定感を高める。 | |
| 指導内容 | 手立て | 指導の経過及び評価 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意なことを生かして、書字を補う手段を身に付ける。 ・書くことと併用して、タブレット等 ICT 機器を学習場面で活用できるようにする。 <p>自己理解を育む学習により、得意、不得意を本人が認められるようにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・個別学習でタブレット端末を使用し、カメラ機能や文字入力機能を活用して学習する。活動前に、ポイントや、効率的に活用する方法を本人が考える時間を設定する。 ・漢字を正しく書くために、特徴や覚えるポイントが分かる視覚支援教材を取り入れる。作文のテーマを自分で選択できるようにし、書く意欲をもって取り組めるようにする。キーボードで作文の内容を入力できるようにする。 <p>実際の学校生活を想定した場面を設定して考えられるようにする。自分の良いところを見付けられるような肯定的な言葉掛けをする。様々な考え方があることを提示する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・視写することに代えて、板書等をカメラ機能を使って保存した。学習の振り返りがしやすいように、教科や日付ごとに整理して、フォルダーに保存できた。 ・形の特徴だけでなく、熟語や文例を確かめ、振り返りカードに短い文章を書いたり、作文のテーマを書いたりした。作文のテーマを決め、書くこととキーボードによる入力を併用しながら、取組んだ。タイピングが早くなり、漢字変換も的確であった。書字の作業負担が軽減され、作文の内容を考えることに時間を使うことができた。 <p>教科学習における得手不得手だけでなく、自分の性格や特性を知ること、長所にも気付くことができた。</p> |
| 特別支援教室より | | |
| <p>特別支援教室では、授業で活用できそうなタブレット端末のアプリを確認した。在籍学級では、板書の撮影から使い始め、授業中に実践した。</p> <p>今後も、「自分の得意なことで苦手なことを補うこと」、「自分の苦手を知り、困った時は周りの人に助けを求められること」を目標に、自己肯定感が低下しないように配慮しながら、支援を依頼する方法を身に付けられるようにする。</p> | | |

連携型個別指導計画

(1 学期)

| | | | |
|--------|-----------|----------|----------|
| 学校・氏名 | 立 中学校 1年 | | |
| 在籍学級担任 | 〇〇 〇〇 | 特別支援教室担当 | 〇〇 〇〇 |
| 記載者 | 〇〇〇〇、〇〇〇〇 | 作成日 | 令和 年7月 日 |

主な指導目標（長期目標）

| |
|---|
| 在籍学級での目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○書字の負担を減らし、集中して授業に参加することができる。 ○自己肯定感を高め、前向きに学校生活を送る。 |
| 特別支援教室での目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○自分に合った学習方法を学び、日常生活で実践することができる。 ○書字に代わる学習方法を身に付け、学習への意欲を高めて取り組めるようにする。 ○自身の特性を知り、自己肯定感を高めることで、前向きな姿勢で対応する力を付ける。 |

主な指導目標に関する短期目標と手だて及び評価

| | | | |
|------------------------|---|----------------|--|
| 在籍学級 | | | |
| 指導期間：令和 年 4 月～令和 年 7 月 | | 評価日：令和 年 7 月 日 | |
| 短期目標 | 書字の負担を減らすことで、集中して授業に参加できる時間を伸ばす。自己肯定感を高める。 | 評価 | 書字の負担が減り、集中して参加できるようになってきた。理科や社会科の授業から、タブレットの活用を始めた。タイピングや体育など得意なことを中心に認める言葉掛けをした。学習以外のことでも自信がもてるように、生活の中でできたことも褒める。 |
| 手だて | 書く分量の調整や時間を確保する。ワークシートには、十字リーダーを入れたり、書きやすいサイズのマス目を表示したりする。タブレット端末を学習中に使用できるよう環境を整える。本人が得意としていることやできていることを褒める。 | | |

| | | | |
|------------------------|--|----------------|---|
| 特別支援教室 | | | |
| 指導期間：令和 年 4 月～令和 年 7 月 | | 評価日：令和 年 7 月 日 | |
| 短期目標 | 状況に応じて、タブレット端末などの ICT 機器を活用する方法を身に付ける。自己理解を促し、自己肯定感を高める。 | 評価 | 視写することに代えて、板書等をカメラ機能を使って保存した。学習の振り返りがしやすいように、教科や日付ごとに整理して、フォルダーに保存できた。形の特徴だけでなく、熟語や文例を確かめ、振り返りカードに短い文章を書いたり、作文のテーマを書いたりした。作文のテーマを自分で決め、書くこととキーボードによる入力を併用しながら、取り組んだ。タイピングが早くなり、漢字変換も的確であった。書字の作業負担が軽減され、作文の内容を考えることに時間を使うことができた。教科学習における得手不得手だけでなく、自分の性格や特性を知ること、長所にも気付くことができた。 |
| 手だて | タブレット端末を活用して学習する。活動前に、ポイントや、効率的に活用する方法を本人が考える時間を設定する。正しく書くために、特徴や覚えるポイントが分かる視覚支援教材を取り入れる。キーボードで作文の内容を入力できるようにする。実際の学校生活を想定した場面を設定して考えられるようにする。自分のよいところを見つけていけるような肯定的な言葉掛けをする。様々な考え方があることを提示する。 | | |

| |
|---|
| 総合的な所見 |
| 板書を撮影するなどタブレット端末を活用して学習することが定着し始めている。今後も、自分の得意なことで苦手なことを補うなど、書くことや学習面できることを増やし、自己肯定感を高め、意欲をもって取り組めるようにする。 |

【事例6】特別支援教室（注意欠陥多動性障害）

| | |
|--------------|---|
| 学校・学年 | 中学校・第2学年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 注意欠陥多動性障害。注意力散漫で、授業に集中して取り組めない。スケジュールを覚えたり、持ち物を自分で管理したりすることが苦手。 |

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育てほしい、など)

| | |
|-------|--|
| 本人から | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい学校生活を送りたい。 ・仲の良い友人を作りたい。 |
| 保護者から | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字や作文が苦手なので、自分に合った学び方を学習してほしい。 ・持ち物を忘れることが多いので、注意して話を聞けるようになってほしい。 |

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・好きなことや得意なことは、集中して最後まで取り組む。 ・苦手なことに対しては、集中が続かなかったり、取り組もうとしななかつたりして、勉強に集中できていない。 ・スケジュールや持ち物の管理ができず、忘れ物や提出物を期限内に提出できないことが多い。 ・心優しいところ、正義感の強い面がある。 ・仲のよい友達には、自分から積極的に話しかけてコミュニケーションをとろうとする。話をするとき近付きすぎたり、相手に触れて話したりすることがある。 ・将来は、絵を描く仕事に就きたい。 |
|--|

3 支援の目標

| <ul style="list-style-type: none"> ・自己を理解し、自分に合った学習方法や記憶の方法が身に付くようにする。 ・学習方法やスケジュール、持ち物の管理について、本人が意識して取り組めるようにする。 ・苦手なことにも支援を受け入れながら取り組めるようにする。 ・友達や教師との適切なパーソナルスペースが取れるようにする。 | |
|---|--|
| 学校の指導・支援 | 家庭の支援 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習量を調整するなど、学習に対する苦手意識の軽減を図り、学習に対する意欲を高めて授業に参加できるようにする。 ・スケジュールや持ち物について、連絡帳への記入を確認するなど個別に言葉掛けをする。 ・適切なパーソナルスペースが意識できるように、具体的な言葉掛けをする。 ・肯定的な評価の言葉掛けを多くする。 ・家庭との連携を図り、共通理解をもって支援に当たる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年だより等から情報を把握し、予定や持ち物の管理について、必要に応じて声を掛ける。 ・できていること、がんばっていることを認め、褒めて伸ばす。 ・電話や連絡帳等で、学級担任、特別支援教室担任と連絡を取り、学校と家庭で連携しながら支援していく。 |

自立活動の「流れ図」

〔特別支援教室〕

| | |
|--------------|--|
| 学校・学年 | 〇〇中学校・第2学年 |
| 障害の種類・程度や状態等 | 注意欠陥多動性障害。注意力散漫で、授業に集中して取り組めない。スケジュールや持ち物等を自分で管理することが苦手。 |
| 事例の概要 | 自分に合った学習の仕方や記憶する方法、行動の切り替え方を身に付け、学習や生活における困難さの改善を図る指導事例 |

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

<障害の状態、発達や経験の程度>

- ・注意して聞き取ったり、集中して学習に取り組んだりすることが難しく、授業に集中できていない。
- ・聴覚による情報を記憶にとどめたり、覚えた情報を思い出したりする力が弱く、学習全般が苦手である。
- ・スケジュールや持ち物を自分で管理できず、忘れ物をしたり、身辺整理ができていなかったりする。
- ・読み書きのアセスメントでは、意味理解と空間認知に課題があることや不注意の課題があること、注意集中のアセスメントでは、聞いて覚えるよりも、見て覚える方が得意であることが分かっている。

<興味・関心>

- ・絵を描くこと、ものづくり

<学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題>

- ・視覚的な情報を手掛かりに覚えることはできるが、漢字など覚えても、思い出すことが難しい。
- ・注意散漫で、学習に集中できない。
- ・興味がない内容や、聞いているだけの授業だと集中が切れやすい。
- ・好きなことをしている時は、過集中になってなかなか切り替えられない。
- ・テスト等では、よく読まずに答えてしまいケアレスミスが多い。
- ・粗大運動は苦手である。
- ・他者のために役立ちたい、他者と関わりたいという気持ちがある。
- ・相手がどのように考えるか深読みしがちで、自分の本心はなかなか表に出さない。
- ・仲のよい友達には、自分から積極的に話しかけてコミュニケーションをとろうとする。

- 1 収集した情報()を「自立活動」の区分に即して整理する段階

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|---|---|--|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・提出物や持ち物の忘れ物が多い。 ・身辺整理が苦手。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情は低くないが、注意散漫な自分だと思っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者と関わりたいという気持ちがある。 ・人の気持ちを深読みしがちで、本心は表に出さない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な情報を手掛かりに覚えることができる。 ・集中のコントロールが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・粗大運動は苦手である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友達には、自分からコミュニケーションをとる。 |

- 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・勉強しなくてはいけないということがわかってはいても、集中力が続かない。
- ・ケアレスミスが多く、テストでは得点につながらない。
- ・忘れ物が多く、身の回りの整理整頓もできていない。
- ・なかなか本心を表に出さないが、親しい相手には、よく話すようになったり、身体接触があったりするなど、人との距離感を適切に取ることが難しい。
- ・忘れ物をしたり、授業中ぼんやりしたりして、叱られることが多い。失敗体験が重なると、学習や生活に対する意欲や自信がより低下することが考えられる。

- 3 収集した情報()を2年後の姿の観点から整理する段階

- ・得意なことを生かした学習の方法を身に付け、意欲をもって学習に取り組むことができる。
- ・学習面での成功体験を重ね、自信を付ける。
- ・好きなこと、苦手なことへの集中のコントロールをして、行動を切り替える方法を身に付ける

| |
|--|
| を基に - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階 |
| <p>(学習面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味がない内容や、聞いているだけの授業だと集中が切れてしまうが、一方で、好きなことをしている時は、過集中になってなかなか切り替えられない。 ・記憶し続ける力が弱く、学習全般が苦手である。漢字などを覚えても、思い出すことが難しい。 ・テスト等では、よく読まずに答えてしまいケアレスミスが多い。 <p>(生活面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物が多く、身辺整理ができていないため、叱られることが多い。 <p>(自己理解・自己認識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意散漫である自己の特性を短所として自覚している。 ・失敗体験が重なると、学習や生活に対する意欲や自己肯定感が低下することが考えられる。 |

| |
|---|
| で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・集中のコントロールができるようにし、ケアレスミスなどを減らす自分に合った方法を身に付けることで、成功体験を重ね、学習意欲や自尊感情を高める。 ・自分に合った記憶の方法を身に付け、スケジュールや身の回りの管理ができるようになる。 ・自身の特性に関する客観的に捉え、支援を受け入れることや頼むことができるようになる。 |

| | |
|---------------------------|---|
| 課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として | に基づき設定した指導目標を記す段階 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学習の仕方や記憶方法を身に付け、学習や生活で実践できるようにする。 ・集中のコントロールができるようにし、学習に集中して取組めるようにする。 ・自身の特性に関する理解を深め、支援の依頼ができるようにする。 |

| | | | | | | |
|----------------------|--|--------------------------------------|----------------------|-----------------------|-------|-----------|
| 指導目標を達成するために必要な項目の選定 | を達成するために必要な項目を選定する段階 | | | | | |
| | 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| | (1)生活リズムや生活習慣に関すること (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること | (3)環境による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。 | (3)自己の理解と行動の調整に関すること | (2)感覚や認知の特性への対応に関すること | | |

| |
|--|
| 項目と項目を関連付ける際のポイント |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学習の仕方や記憶方法を身に付けるために、健(1)(4)、環(2)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、アである。 ・集中のコントロールし、学習に集中して取組めるようにするために、心(3)、人(3)、環(2)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、イである。 ・自己理解を深め、支援の依頼ができるようにするために、心(3)、人(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、ウである。 |

| | | | |
|-------------------------|---|--|--|
| 選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定 | 具体的な指導内容を設定する段階 | | |
| | ア | イ | ウ |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な情報を手掛かりにした学習の方法や記憶の方法など、自分に合った方法が身に付くようにする。 ・学習場面や生活場面で、身に付けた方法を使えるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・時間で活動を区切るなど、行動を切り替える方法を身に付ける。 ・内容を自分で選択できるようにし、苦手な学習にも、集中できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自身の長所と短所について考え、特性を客観的に捉えられるようにする。 ・困難を補うための支援を、依頼するための伝え方を考える。 |

個別指導計画

令和 年 月 日作成
作成者()

【通常の学級】

| | | | |
|-------------|---|------------|--|
| 生徒名 | 2年 ○組 | | |
| 学校名 | 中学校 | 校長名 | |
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・集中して学習に取り組み、授業に意欲をもって参加できるようにする。 ・スケジュールや持ち物の管理を、意識してできるようにする。 ・相手との距離感を図り、適切なパーソナルスペースが取れる。 | | |

本人・保護者の願い

- (本人) ・楽しい学校生活を送りたい。
 ・仲の良い友人を作りたい。
 (保護者) ・漢字や作文が苦手なので、自分に合った学び方を学習してほしい。
 ・忘れ物が多いので、注意・集中力を高めてほしい。

生徒の実態及びこれまでの経過

- ・やりたいことには集中力できるが、苦手なことには消極的である。
- ・身の回りの整理やスケジュール管理ができず、未提出物が多い。
- ・取り組む前から諦めてしまい、学習に対する関心や意欲が低い。

連携外部機関

教育センター
○○病院

| | 指導目標 | 支援・手立て | 指導の経過及び評価 |
|-------------|--|--|---|
| 学習面 | <ul style="list-style-type: none"> ・支援を受けて、授業に集中して参加できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・短時間で活動を区切る。 ・題材を選ぶことができる活動に、得意なことを選択肢として設定する。 ・机間指導で、できていることを評価する言葉を掛ける。 ・特別支援教室で身に付けた学習方法等を、実践できるよう、特別支援教室と連携する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友達同士で意見交換をしたり、班ごとに考えたりするなど、活動を区切って学習活動を進めたことで、集中して授業に参加できた。 ・集中が切れそうなタイミングで言葉を掛けることで、気持ちを切り替え、学習に集中できた。 ・特別支援教室で学んだ自分に合った学習方法を実践していた。 |
| 集団生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者との適切なパーソナルスペースを保てるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で、他者との適切な距離感について考える機会を設け、友達同士で意識し合えるようにする。 ・「腕を伸ばした距離」等の具体的な言葉掛けでイメージしやすくする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者との適切な距離感について、仲の良い友達からの言葉掛けを受けて、意識していた。 ・パーソナルスペースは、相手によって変わるということを理解することができた。 |
| 身辺自立 | <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物を減らそうと意識し、スケジュールや持ち物管理をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳の記入の確認を、個別に言葉掛けする。 ・持ち物に対する意識をもつために、メモカードを用意する。 ・学年だより等の行事予定を活用し、提出物や生活のスケジュールを一緒に確認する。 ・家庭との連携を図り、支援の方法等の共通理解をもって指導に当たる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳への記入、メモカードの活用には、言葉掛けがまだ必要だが、家庭の協力もあって、少しずつ忘れ物が減ってきた。 ・忘れ物がなかった日を連絡帳にチェックし、評価を記録した。 ・学年だより発行のタイミングで予定の確認をした。連絡帳の記入確認の際に、提出日等を再度確認した。 |

生徒の変容と引継ぎ事項

- ・授業への集中を促すために、動きのある活動や、活動を短く区切るという工夫は有効であった。
- ・得意なことを選択して学習したことは、集中して授業に取り組むことにつながった。
- ・具体的な言葉掛けや、授業の始めに学習の流れを提示するなどの視覚支援は、理解しやすかった。

【特別支援教室】

作成者()

| | | | |
|----------|--|----|----------------|
| 生徒氏名 | | 在籍 | 中学校 2年 組(担任:) |
| 保護者の願い | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字や作文が苦手なので、自分に合った学び方を学習してほしい。 ・忘れ物が多いので、注意・集中力を高めてほしい。 | | |
| 長期目標(年間) | <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学習の仕方や記憶方法を身に付け、学習や生活で実践できるようにする。 ・集中のコントロールができるようにし、学習に集中して取り組めるようにする。 ・自身の特性に関する理解を深め、支援の依頼ができるようにする。 | | |

通室回数・時数(略)

1 学期

| 短期目標(学期) | | |
|--|--|---|
| 1 学期 | 自分に合った学習の方法や記憶する方法を知る。 苦手な学習について、少しずつ集中できる時間をのばす 自分の特性を知り、自己を肯定的に捉えられるようにする。 | |
| 内容 | 手立て | 指導の経過及び評価 |
| 自分に合った学習の方法や記憶の方法が身に付くようにする。 行動を切り替える方法を身に付け、苦手な学習にも、集中できる時間をのばす。 自分の得意なことや苦手なことを知る | 作文の学習では、挿絵のある教材を用いて、イメージもてるようにする。正しい漢字を電子辞書で調べられるようにする。短期記憶のトレーニングを取り入れる。 事前に取り組む時間を設定し、行動を切り替えられるようにする。得意な分野と苦手な分野の学習を取り入れ、自分で内容を選択できる設定にする。 自己理解に関するワークシートを用いた学習で、自分の得意なことや苦手なことが客観的に捉えられるようにする。 | 作文は、挿絵により想像力を膨らませ、起承転結の型に沿って書いた。漢字が分からないときは、自分から電子辞書を用いて調べて書き写した。短期記憶のトレーニングには、継続して取り組み、自分に合った記憶の方法を繰り返し行い、学習中は、覚えて書いたり、行動したりして成功体験を重ねた。 事前に時間を設定して活動を区切るとともに、タイマーを使って音でも行動の切り替えを促した。学習内容を自分で選んだり、苦手なことが終わったら、得意な学習に取り組めるように設定したりして、苦手なことにも少しずつ集中できるようになってきた。 長所と短所の学習では、見方を変えると、短所が長所にもなることを学んだ。小集団学習では、他者から見た自分の長所に気付くことができた。 |
| 特別支援教室より | | |
| 学期の始めは、興味・関心がもちにくい学習には、集中力を持続させることが難しく、一方で、自分の好きな学習には過集中になり、なかなか切り替えられなかったが、興味・関心が低い学習でも、テーマや内容を自分で選択できるようにしたことで、設定した時間内は集中して取り組めることも増えてきた。注意・集中のコントロールや、自分に合った学習方法、記憶の方法を身に付け、在籍学級でも実践できるように、引き続き取り組んでいく。 | | |

連携型個別指導計画

(1 学期)

| | | | |
|--------|-----------|----------|----------|
| 学校・氏名 | 立 中学校 2年 | | |
| 在籍学級担任 | 〇〇 〇〇 | 特別支援教室担当 | 〇〇 〇〇 |
| 記載者 | 〇〇〇〇、〇〇〇〇 | 作成日 | 令和 年7月 日 |

主な指導目標（長期目標）

| |
|--|
| 在籍学級での目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・集中して学習に取り組み、授業に前向きな姿勢で参加できるようにする。 ・スケジュールや持ち物の管理を、意識してできるようにする |
| 特別支援教室での目標 |
| <p>自分に合った学習の仕方や記憶方法を身に付け、学習や生活で実践できるようにする。</p> <p>集中のコントロールができるようにし、学習に集中して取り組めるようにする。</p> <p>自身の特性に関する理解を深め、支援の依頼ができるようにする。</p> |

主な指導目標に関する短期目標と手だて及び評価

| | |
|------------------------|--|
| 在籍学級 | |
| 指導期間：令和 年 4 月～令和 年 7 月 | |
| 評価日：令和 年 7 月 日 | |
| 短期目標 | <p>支援を受けて、授業に集中して参加できるようにする。</p> <p>忘れ物を減らそうと意識し、減らせるような取り組みを続ける。</p> |
| 手だて | <p>短時間で活動を区切る。得意なことを選択肢として設定する。できていることを評価する言葉を掛ける。</p> <p>連絡帳の記入の確認をする。持ち物用のメモカードを用意する。学年だより等を活用し、提出物や生活のスケジュールを確認する。</p> |
| 評価 | <p>活動を区切って学習活動を進めたことで、集中して授業に参加できた。集中が切れそうなタイミングで言葉を掛けることで、気持ちを切り替え、学習に集中できた。特別支援教室で学んだ自分に合った学習方法を実践していた。</p> <p>連絡帳への記入には、言葉掛けがまだ必要だが、家庭の協力もあって、少しずつ忘れ物が減ってきた。学年だより発行のタイミングで予定の確認をした。連絡帳の記入確認の際に、提出日等を再度確認した。</p> |

特別支援教室

| | |
|------------------------|--|
| 指導期間：令和 年 4 月～令和 年 7 月 | |
| 評価日：令和 年 7 月 日 | |
| 短期目標 | <p>自分に合った学習の方法や記憶する方法を知る。</p> <p>苦手な学習について、少しずつ集中できる時間をのばす</p> <p>自分の特性を知り、自己を肯定的に捉えられるようにする。</p> |
| 手だて | <p>作文の学習では、挿絵のある教材を用いて、イメージもてるようにする。正しい漢字を電子辞書で調べられるようにする。短期記憶のトレーニングを取り入れる。</p> <p>事前に取り組む時間を設定し、行動を切り替えられるようにする。得意な分野と苦手な分野の学習を取り入れ、自分で内容を選択できる設定にする。</p> <p>自己理解に関するワークシートを用いた学習で、自分の得意なことや苦手なことが客観的に捉えられるようにする。</p> |
| 評価 | <p>作文は、挿絵により想像力を膨らませ、起承転結の型に沿って書いた。漢字が分からないときは、自分から電子辞書を用いて調べて書き写した。短期記憶のトレーニングには、継続して取り組み、自分に合った記憶の方法を繰り返し行った。</p> <p>事前に時間を設定して活動を区切るとともに、タイマーを使って音でも行動の切り替えを促した。学習内容を自分で選んだり、苦手なことが終わったら、得意な学習に取り組めるように設定したりして、苦手なことにも少しずつ集中できるようになってきた。</p> <p>長所と短所の学習では、見方を変えると、短所が長所にもなることを学んだ。小集団学習では、他者から見た自分の長所に気付くことができた。</p> |

総合的な所見

| |
|---|
| <p>注意散漫や過集中にならないよう、本人の得意な課題の提示や、動きのある活動、活動を短く区切る工夫が有効である。自分に合った学習方法や記憶の方法、行動を切り替える方法を身に付け、自信をもって実践できるようにする。</p> |
|---|